

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2005-73664
(P2005-73664A)

(43) 公開日 平成17年3月24日(2005.3.24)

(51) Int. Cl.⁷

AO1K 85/00

F I

AO1K 85/00

G

テーマコード(参考)

2B107

AO1K 85/00

J

審査請求 未請求 請求項の数 5 O L (全 8 頁)

(21) 出願番号

特願2003-311333(P2003-311333)

(22) 出願日

平成15年9月3日(2003.9.3)

(71) 出願人

392011390

株式会社ティムコ

東京都墨田区菊川3丁目1番11号

(74) 代理人

100069903

弁理士 幸田 全弘

(72) 発明者

霜田 祐介

東京都墨田区菊川3丁目1番11号 株式

会社ティムコ内

Fターム(参考) 2B107 BA42 BA70

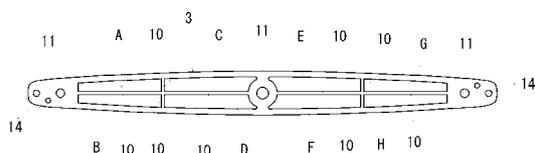
(54) 【発明の名称】 フィッシング用ジグ

(57) 【要約】

【課題】 構造がシンプルで、釣り場の状態や対象とする魚の種類など様々な条件に対応することができ、変化に富んだ動きをすることができるフィッシング用ジグを提供する。

【解手段】 一对の分割体3(4)によって、内部に中空部が形成される小魚等を模した細長い扁平状のジグ本体2を構成するとともに、その内部を仕切り板10によって複数の部屋A~Hに区画し、仕切られた任意の部屋A~Hにウエイト部材Wを、着脱自在に装填できるように構成してジグ本体とする。

【選択図】 図2



【特許請求の範囲】

【請求項 1】

小魚等を模した細長い扁平状のジグ本体であって、
このジグ本体の内部を中空状に形成すると共に、仕切り板によって内部を複数の部屋に
区画し、

仕切られた任意の部屋にウエイト部材を、着脱自在に装填できるよう構成したことを
特徴とするフィッシング用ジグ。

【請求項 2】

前記ジグ本体は、

長さ方向に沿って縦方向に 2 分割された一対の分割体から構成され、各分割体の相対す
る部位に仕切り用の突条がそれぞれ一体的に形成されていること 10
を特徴とする請求項 1 に記載のフィッシング用ジグ。

【請求項 3】

前記ジグ本体は、

長さ方向に沿って縦方向に 2 分割された一対の分割体から構成され、各分割体の相対す
る部位に仕切り用の突条がそれぞれ一体的に形成され、かつ両分割体が開閉自在に保持さ
れていること
を特徴とする請求項 1 に記載のフィッシング用ジグ。

【請求項 4】

前記ジグ本体を構成する一対の分割体は、

ビスなどの締結部材で開閉自在に保持されるものであること 20
を特徴とする請求項 3 に記載のフィッシング用ジグ。

【請求項 5】

前記ジグ本体は、

合成樹脂又は肉厚の薄い鋼材で形成されていること
を特徴とする請求項 1 ~ 4 のいずれかに記載のフィッシング用ジグ。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

この発明は、擬餌鉤を使って魚を釣るルアー・フィッシングにおいて、小魚などに模し 30
て形成した細長い扁平状のフィッシング用ジグに関するものである。

【背景技術】

【0002】

ルアー（擬餌鉤）をキャストし、これを水面または水中でリーリングやロッドワ
ークを駆使することによって魚を釣るルアー・フィッシングは、現在多くの人に趣味また
はスポーツとして幅広く行われている。

【0003】

かかるルアー・フィッシング使用されるルアーにおいて、ウエイトにフックを取付けた
ものであるジグは、大部分が金属で製作されているため、よく沈み中層から深層にかけて 40
棲息する魚を対象として使用されるルアーで、種類としては、金属製の細長い扁平状のウ
エイトにフックを取付けたメタルジグと、金属製の球状体のウエイトが取付けられたフッ
クにラバースカートを取付けたラバージグなどを挙げることができる。

【0004】

前記のメタルジグは、基本的には、鉛やタングステンなどを使用して作られるもので、
リーリングすると横に大きく揺れながら上がってくる長いタイプ（ロングスライド：L・S）
と、横方向にキビキビ動きながら上がってくる短いタイプ（ダートスライド：D・S）
があり、それぞれ動きに特徴があるため、釣り場の状態や対象とする魚の種類によって
ジグを交換しなくてはならず、煩瑣なものであった。

【0005】

また、従来のメタルジグは、基本的に鉛やタングステン製の中実体であるため、動きが 50

一定でリトリブを止めた魚に見切られ易く、魚に飽きられ易いという問題を有しているもので、変化に富んだ動きで、魚の喰いつきの良いジグが強く要望されている。

【0006】

そこで、たとえば、特開2001-211784号公報(特許文献1)においては、細長い扁平形状のジグ本体に、所定の角度の羽根を外方に突出するように形成し、このジグ本体の表裏両面にそれぞれ外装体を張り付けたジグが提供されている。

【特許文献1】特開2001-211784号公報(特許請求の範囲、図1、図2)

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

【0007】

しかしながら、この特許文献1に記載するジグは、ジグ本体に所定の角度の羽根を外方に突出するように形成しているため、この羽根が水中で水の抵抗を受けて動きを種々変化させ、魚の喰いつきを良くすることができるが、外方に突出するように羽根を形成しているため、海底の岩の隙間や木の枝などに挟まって根がかりを起しやすく、またジグ自体の構造が複雑で、多数の部材で構成されているため、製造工程も複雑でコスト高になりやすいものである。

【0008】

この発明はかかる現状に鑑み、構造がシンプルで、釣り場の状態や対象とする魚の種類など様々な条件に対応することができ、変化に富んだ動きをすることができるフィッシング用ジグを提供せんとするものである。

【課題を解決するための手段】

【0009】

前記の目的を達成するため、この発明の請求項1に記載の発明は、小魚等を模した細長い扁平状のジグ本体であって、このジグ本体の内部を中空状に形成すると共に、仕切り板によって内部を複数の部屋に区画し、仕切られた任意の部屋にウエイト部材を、着脱自在に装填できるよう構成したことを特徴とするフィッシング用ジグである。

【0010】

また、この発明の請求項2に記載の発明は、請求項1に記載のフィッシング用ジグにおいて、前記ジグ本体は、長さ方向に沿って縦方向に2分割された一対の分割体から構成され、各分割体の相対する部位に仕切り用の突条がそれぞれ一体的に形成されていることを特徴とするものである。

【0011】

また、この発明の請求項3に記載の発明は、請求項1に記載のフィッシング用ジグにおいて、前記ジグ本体は、長さ方向に沿って縦方向に2分割された一対の分割体から構成され、各分割体の相対する部位に仕切り用の突条がそれぞれ一体的に形成され、かつ両分割体が開閉自在に保持されていることを特徴とするものである。

【0012】

また、この発明の請求項4に記載の発明は、請求項3に記載のフィッシング用ジグにおいて、前記ジグ本体を構成する一対の分割体は、ビスなどの締結部材で開閉自在に保持されるものであることを特徴とするものである。

【0013】

10

20

30

40

50

また、この発明の請求項 5 に記載の発明は、
請求項 1 ~ 4 のいずれかに記載のフィッシング用ジグにおいて、
前記ジグ本体は、
合成樹脂又は肉厚の薄い鋼材で形成されていること
を特徴とするものである。

【発明の効果】

【0014】

この発明のフィッシング用ジグは、細長く扁平でかつ中空なジグ本体の内部を、複数の部屋に区画し、使用目的に応じて所要の部屋内にウエイト部材を入れることができるため、ウエイト部材の配置位置や素材、形状、重さなどを変更することにより、釣り場の状況や対象とする魚などの条件に合わせて対応が可能で、変化に富んだ動きのジグとすることができるので、魚に見切られにくく、喰いつきの良いものとするることができる。

10

【0015】

また、この発明のフィッシング用ジグは、ジグ本体をプラスチックで形成しているため耐久性がきわめて高く、基本的には、ジグ本体にウエイト部材を入れてネジで接合するだけであるため、構造がシンプルで、低コストで生産でき、さらには、組立てが簡単なことから、組立てることなく各パーツをジグセットとして出荷したり、パーツのみを販売したりできるので非常に有用なものである。

【発明を実施するための最良の形態】

【0016】

この発明のフィッシング用ジグは、細長く扁平でかつ中空なジグ本体の内部を、複数の部屋に区画し、使用目的に応じて所要の部屋内にウエイト部材を着脱自在に装填可能なように構成したことを特長とするもので、以下、この発明のフィッシング用ジグの好ましい実施の形態を、添付の図面に基づいて具体的に説明する。

20

【0017】

図 1 は、この発明のフィッシング用ジグの一例を示すもので、このフィッシング用ジグ 1 は、細長くかつ扁平な一对の分割体 3, 4 によって内部が中空なジグ本体 2 を形成し、このジグ本体 2 内に後述するウエイト部材 W が着脱自在に装填できるよう構成されたもので、各分割体 3, 4 の表面には必要に応じて目やウロコなどが表示され、ジグ本体 2 の前後には左右方向に貫通する取付け孔 5, 6 を形成し、各取付け孔 5, 6 にそれぞれリング状のアイ 7, 8 を装着し、前方のアイ 7 にはティベット（道糸）の一端を、後方のアイ 8 にはフック 9 を取付けたものである。

30

【0018】

前記ジグ本体 2 は、一方の分割体 3 の正面図を示す図 2 で明らかなように、分割体 3 の内側に細長く浅い凹部を形成する。同様に図示しないが他方の分割体 4 の内側にも、前記分割体 3 の凹部と相対させて凹部を形成し、この凹部同士を相対させることで内部を中空とするものである。

【0019】

そして、各分割体 3 (4) の凹部の相対する部位には、それぞれ突条からなる仕切り板 10, 10・・・を一体的に形成して内部に複数の部屋 A ~ H を形成し、相対する部屋同士によってウエイト部材 W を収納保持するように構成したものである。

40

【0020】

なお、図中 11 は、2つの分割体 3, 4 を相互に一体化せるビス 12 を挿通させるための挿通孔で、各分割体 3 (4) の挿通孔が顕出する表面側には、ビス 12 の頭部頂面と分割体 3 (4) の表面とが面一となるように凹部 13 が形成されている。

【0021】

また、図中 14 は、分割体 3 の内側に形成された係合凹部で、図示しないが、他方の分割体 4 の、前記係合凹部 14 と相対する部位には係合突起が形成され、両者を係合させることによって、フィッシング用ジグ 1 を組立てる際の位置合わせとするとともに、ジグ本体 2 にズレを生じさせることなく組立てることができる。

50

【0022】

また、ジグ本体2を構成する各分割体3,4は、合成樹脂材料を使用してそれぞれ一体成型するものであるが、肉厚の薄い鋼材も使用することが可能で、ジグ本体2は、組立て際に表面となる面に小魚を模した模様等を施すに際しては、サバ、イワシなど青魚のウロコ模様のフォログラムを塗装したものが好ましく、このウロコ模様のフォログラムをシート状に形成して接着剤などで貼付けしてもよい

また、各分割体3,4の内側に形成された凹部を仕切り板10によって複数の部屋A~Hに区画するに際し、部屋の数にはなんら制限はないもので、各部屋A~Hに装填するウエイト部材Wは、鉛またはタングステンからなるもので、基本的には、薄い板状体であるが、音による集魚効果をフィッシング用ジグ1に付加したい場合には、球状のものを使用することもできる。

10

【0023】

かかる構成部材を使用してフィッシング用ジグ1を組立てるには、いずれか一方の分割体3(4)の部屋A~Hの一つもしくは複数の部屋内に板状体からなるウエイト部材Wを装填したのち、前記係合突起または係合凹部14を使用して分割体3,4を重ね合わせ、一方の表面からビス12をそれぞれ挿通し、他方の表面に顕出したビス12の先端部にナット(図示せず)を係合させてジグ本体2を形成すればよい。

【0024】

なお、上記の実施の形態においては、一对の分割体3,4の一体化はビス12を使用するものであるが、両者を確実に一体化できれば、たとえば、分割体3,3の上端部もしくは下端部を薄いヒンジを介して一体的に連結し、開閉自在な他端部同士を係合突起と係合凹部から締結具で確実に係合させる手段であってもよく、ルアーとしてジグに前記構成を採用しているが、プラグ形式のルアーにも適用が可能である。

20

【0025】

以下、かかる構成からなるフィッシング用ジグ1に、取替え可能に入れられるウエイト部材Wの配置パターンの一例を、図3~図7を参照にして説明する。

【0026】

図3に示す配置パターンは、ジグ本体2における下方側のすべての部屋にウエイト部材Wを装填したもので、その動きは、図3に示しているように、リーリングするとスライドし、止めると体勢を水平にしてフォールするものである。

30

【0027】

図4に示す配置パターンは、ジグ本体2における上下中央の4つの部屋にウエイト部材Wを装填したもので、その動きは、図4に示しているように、リーリングを止めると体勢を水平にして大きくヒラヒラとフォールするものである。

【0028】

図5に示す配置パターンは、ジグ本体2の中央部から尾部側に位置する部屋のすべてにウエイト部材Wを装填したもので、その動きは、図5に示しているように、後半部に重量が集中しているため沈降速度が速く、素早くポイントにジグを到達させることができるものである。

【0029】

図6に示す配置パターンは、ジグ本体2の中央部より頭部側に位置する部屋のすべてにウエイト部材Wを装填したもので、その動きは、図6に示しているように、リーリングする際に浮力のある部分が下方となるため、リーリングを止めると浮力によって後方が浮くので、細かくヒラヒラと動かすことができるものである。

40

【0030】

図7に示す配置パターンは、ジグ本体2の対角線上に位置する部屋、すなわち、頭部側の右側に位置する部屋と尾部側の左側に位置する部屋のすべてにウエイト部材Wを装填したもので、その動きは、図7に示すように、ジグをポイントに沈めるときやリーリングを止めたときに、螺旋を描くようにフォールさせることができるものである。

【図面の簡単な説明】

50

【 0 0 3 1 】

【図 1】この発明のフィッシング用ジグの一実施例を示す斜視図である。

【図 2】図 1 に示すフィッシング用ジグを構成する一方の分割体の正面図である。

【図 3】この発明のフィッシング用ジグにおけるウエイト部材の配置パターンの一例を示す説明図である。

【図 4】この発明のフィッシング用ジグにおけるウエイト部材の他の配置パターンを示す説明図である。

【図 5】この発明のフィッシング用ジグにおけるウエイト部材のさらに他の配置パターンを示す説明図である。

【図 6】この発明のフィッシング用ジグにおけるウエイト部材のさらに他の配置パターンを示す説明図である。 10

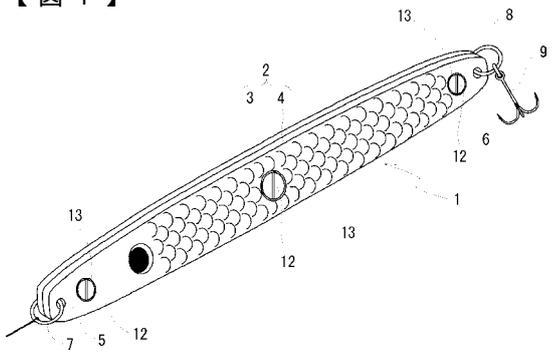
【図 7】この発明のフィッシング用ジグにおけるウエイト部材のさらに他の配置パターンを示す説明図である。

【符号の説明】

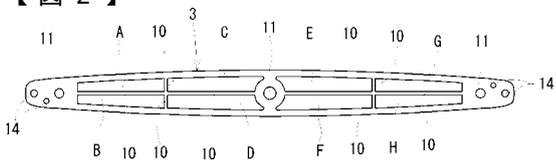
【 0 0 3 2 】

- | | |
|-------|-----------|
| 1 | フィッシング用ジグ |
| 2 | ジグ本体 |
| 3, 4 | 分割体 |
| 5, 6 | 挿通孔 |
| 7, 8 | アイ |
| 9 | フック |
| 10 | 仕切り板 |
| 11 | 挿通孔 |
| 12 | ビス |
| 13 | 凹部 |
| 14 | 係合凹部 |
| A ~ H | 部屋 |
| W | ウエイト部材 |

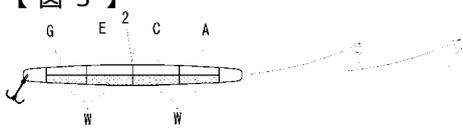
【 図 1 】



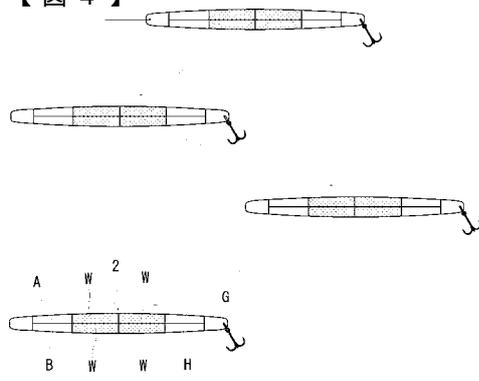
【 図 2 】



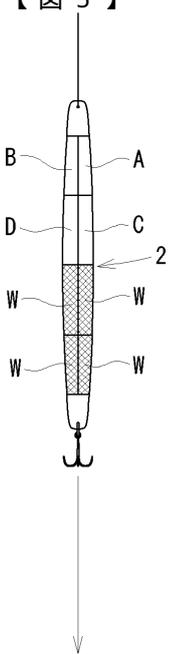
【 図 3 】



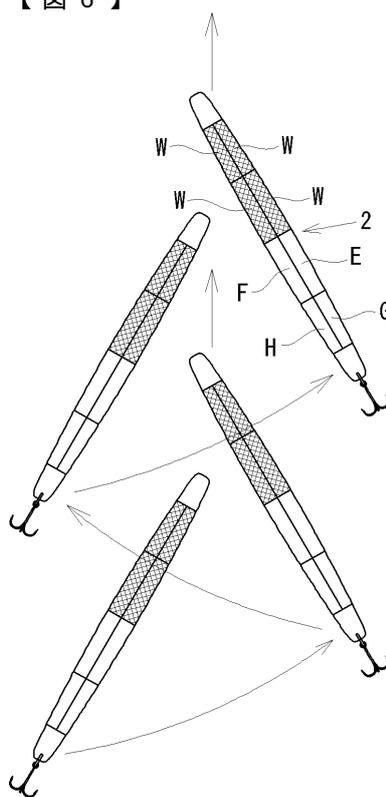
【 図 4 】



【 図 5 】



【 図 6 】



【 図 7 】

